

令和4年度 第2回弘前市廃棄物減量等推進審議会会議要旨

- 日時 令和4年11月9日（水）13時30分～15時00分
- 場所 弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
- 出席者 樋口会長、阿保委員、安東委員、飯田委員、太田委員、
小田桐委員、加藤委員、佐藤（康）委員、佐藤（八）委員、
西村委員、三橋委員
- 欠席者 石田委員、石塚委員、佐々木委員
（委員14名のうち11名出席）
- 事務局 岩崎市民生活部長、菊池環境課長、
田沢町田事業所長、山内環境課長補佐
長内主幹兼資源循環係長、成田廃棄物政策係長、
安田廃棄物政策係主査、三上廃棄物政策係主事、齊藤廃棄物政策係主事

○内 容

1 開 会（進行：山内環境課長補佐）

2 部長挨拶

3 会 議（進行：樋口会長）

（1）【案件1】弘前圏域自治体のごみの排出状況について

⇒【資料1】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

・弘前市の事業系ごみの減少率が高い理由は。

→令和元年度から開始した搬入規制の成果があったものと認識している。

（2）【案件2】プラスチック資源の分別について

⇒【資料2】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

・ナイロンは別なのか。

→プラスチックを原料とする化学繊維は今回の一括回収に入っていないので、今後も燃やせるごみになると認識している。

・リチウムイオン電池の混入が危惧される。対策は。

→危険ごみや水銀使用製品の分別回収を合わせて検討している。

- ・汚れが付着している容器などは洗って出すことになるのか。
- 汚れが落ちるものは洗って出していただくかたちになる。
- ・イラストや動画、アプリを駆使して分かり易く伝える手段を検討していただきたい。

(3) 【案件3】組成分析調査と組み合わせた「キエーロ」活用モデル事業の結果について

⇒【資料3】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

- ・組成分析では、キエーロを使用していない世帯のごみも含まれていると思うが、実際に使用した人の減少効果はどれくらいだったのか。
- 使用者からは生ごみが2割程度減ったという感想をいただいている。キエーロによる生ごみ減少の効果のほか、使用者に「生ごみを発生させない」という意識が働いたものと認識している。

(4) 【案件4】エコ容器活用モデル事業について

⇒【資料4】について事務局から説明を行った。

質問・意見等

- ・テイクアウトへの波及では、次の販売時に持って行けば割安にするとか、リピートを上げるような施策も良いと思う。
- 弘大生協ではデポジット制を採用している。ただし、それでも回収率が課題となっているので検証しながら進めたい。

4 課長挨拶

5 閉会（進行：山内環境課長補佐）

○資料

- ・【資料1】弘前圏域自治体のごみの排出状況について
- ・【資料2】プラスチック資源の分別について
- ・【資料3】組成分析調査と組み合わせた「キエーロ」活用モデル事業の結果について
- ・【資料4】エコ容器活用モデル事業について
- ・【参考資料】プラスチック使用製品廃棄物の分別収集の手引き
なごみ生活（令和4年9月15日発行）

○公開・非公開の区分 「公開」